

東地申
第04号

「輪軸圧入作業の不適切な取り扱い等について」に関する申し入れ団体交渉

圧入カグラフの書き換えを「改ざん」と認めない

会社姿勢が明らかに!!

3月27日東地申第4号「輪軸圧入作業の不適切な取り扱い等について」に関する申し入れ団体交渉を実施しました。第1項で会社は、**グラフの書き換えはコンプライアンス違反であると認めました**。しかし、第2項で**「改ざん」と表現すべきである**とした組合側の主張に対して会社は、**「改ざん」という表現は適当ではない。「書き換え」が最も適当な表現である**と主張し、議論が平行線となりました。**事象をどのように捉えているのかが一致できないままではこの先の議論ができないと判断したため、中断を申し出て、再度議論の場を設定することを確認して27日の交渉は終了しました。**

組合側の主張

- ・管理者も含め、個人を責任追及するつもりは一切ない。
- ・組織的な課題(職場風土やマネジメント)によるものだ。
- ・間違っていたことを素直に認めること、事象を正しく認識することが、原因究明と対策実施のスタートラインであり、**「改ざん」という表現をするべき**である。今回の事象は「3」と計測したものを「1」と記載している事象だと比喻しているのは会社だ。これを「改ざん」と表現しないでなんというのか。
- ・国土交通省も「改ざん」と表現しているのに、「改ざん」という表現を使わないことに違和感しか感じない。社員やお客さまが改ざんと表現しない会社姿勢を知ったら本当に反省しているのか?と思うのではないか。

会社側の主張

- ・今回の事象は、わかりやすく言えば「3」と計測したものを「1」と記載した事象である。どんな理由があってもやっではないけない。事実と異なった記載をすることはできないと伝えることが大切である。
- ・作業者に悪意はなく、メーカーの見解のもと、技術的に安全であることを確認したうえで事実とは異なる記載をしたと聞いている。そのようなことから、**事実が一番正しく伝わる表現として、「改ざん」は適当ではない。「書き換え」という表現が適当である。会社として「改ざん」と表現するつもりはない。**
- ・「改ざん」のとらえ方は人それぞれ。国土交通省の発表にある「改ざん」は多くの鉄道事業者をまとめて表現したものだとして認識している。

「改ざん」という言葉を頑なに使わない会社姿勢に納得できますか?間違いを素直に認めることができる会社だと言えるのでしょうか。

この期に及んで改ざんを否定する交渉での態度に、今の経営姿勢が如実に表れています。

東労組東京地本は「責任追及ではなく原因究明へ」のスタンスで最後まで会社と議論していきます!!